

岡田覚丈先生 : Clin Nucl Med (2009)34:862-868

“不明熱診断の名医、PET 先生！？”

F-18 FDG PET/CT in the Diagnosis of Fever of Unknown Origin

【背景】「この発熱の原因は何だね！！」と回診で怒鳴られ、泣く泣くいろんな検査をすれども、結局は裏切られ、どこかにあっという間に診断してくれる、すばらしい名医がいないものかと思っていた先生も多いと思います。今、ペット医師に注目が集まっています。

【方法】不明熱患者 68 例に対し PET-CT を施行し、その診断能について解析がなされました。

【結果】なんと、68 例中、感度 93%、(PET-CT の陽性 41 例中、診断確定された患者 38 例)、特異度 100%(PET-CT の陰性 27 例)と極めて良好な診断能であった。PET-CT の陽性 41 例の内訳は、感染症 25 例、悪性腫瘍 1 例、血管炎など 11 例、移植の拒絶 1 例で、False positive は 3 例であった。PET-CT の陰性 27 例中 6 例は、疾患の性質上診断不能と考えられる、CLL、血管炎、薬剤性であり、21 例は解熱症例であった。

【結論】このように、PET 先生、不明熱診断においても、名医の称号はふさわしいようなのですが、入院での検査が続けば、今の時代「この収益率低下の原因は何だね！」と、怒鳴られる声が聞こえてきます。

(文責 阿比留)